



肥料はまきムラの無いように…

《春肥の施用》

早いところでは、肥料を施し、いよいよ新茶期に向けた作業の開始です。**春肥は品質向上に関係する**といわれる有機質肥料（魚粕骨粉など）を使った配合肥料を施すことで、品質効果が高くなる重要な作業です。

施肥はできる限り分施しましょう。1回目は、早場所で2月下旬から3月上旬に施用。遅場所では、3月上旬中旬に施用してください。肥料の種類によって違いはありますが、分解されて根に吸収されるまでには、少なくとも30日程かかります。また、2回目の施用は20日程おいてから施しましょう。

肥料は畝間にできるだけ幅広く施肥し、土と良く混ぜ合わせましょう。雨水

で溶けた成分は、土の中をほぼ垂直に浸透していきます。肥料が1か所に多量に施されると、細根が濃度障害をおこし、枯死してしまうことがあるので注意が必要です。

今月のワンポイントアドバイス！

「一番茶の品質は春先の施肥によって決まる！」

くれぐれも施肥時期が遅れることなく、雨の前後に施用するなど良質な一番茶に向けての管理をしましょう。

《病害虫防除》

赤焼け病は毎年同じ所で発生します。風が強くなる園・寒害の発生しやすい園は、注意が必要です。多発園は、2月と3月の2回防除をおススメします。

『平成30年度における茶の国庫補助事業について』

現在、公募されていますが、昨年同様計画されているようです。急な公募および締め切りも想定されます。最寄りの営農経済センターへ事前にお問い合わせください。

参考：昨年の主な国庫補助事業（内は昨年の公募月）

1. 茶工場燃料高騰対策支援事業（2月）

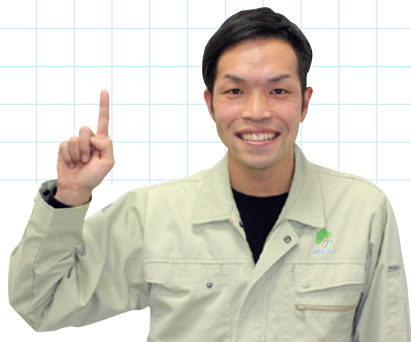
※成果目標の設定あり

①セーフティネット

②省エネ型機械リース支援事業（重油年間使用料10%以上削減目標）

2. 茶防霜ファン補助事業（2月）

3. 茶改植・台切り等の補助事業（3月）



農業経営支援課
山本 尚充